

平成22年4月26日開催

全 員 協 議 会 資 料

- 報告事項 東京農業大学生物産業学部と北海道福島町との包括連携協定について

総務課企画グループ

1. 経緯について

当町の千軒地域活性化実行委員会が主催している「殿様街道ウォーキング」が縁で、東京農業大学創設者の榎本武揚子爵の子孫にあたる東京在住の榎本隆充客員教授のご紹介により、昨年9月2日に町長が東京農業大学オホーツク実学センターを視察訪問した際に、水産業・農業・林業の各分野における産業振興に対する支援及び協力を大学に要請し、横濱学部長から支援協力に関して可能である旨の内諾をいただいたところであります。

また、4月19日に事務担当者が再度、当大学を訪問し、横濱学部長、松丸事務部長などと包括連携協定書の締結に向けた事務的な事前協議を行ってきたところであります。

2. 東京農業大学生物産業学部の状況について

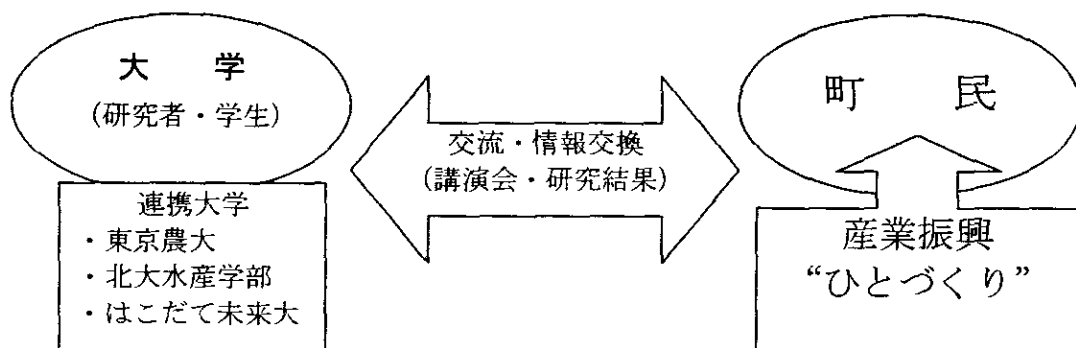
東京農業大学は、徳川育英会を母体とし、創立119年の歴史を誇っており、「人物を世界の畑に還す」の教育方針のもと、「実学主義」に基づく教育・研究を推進しております。

オホーツクキャンパスの生物産業学部には、生物生産学科、アクアバイオ学科、食品香粧学科及び産業経営学科があり、約1,600人の学生が学んでおります。

また、今年度から新たに地域活性化として「オホーツクのものづくり・ビジネス地域創生塾」を開校し、各地域と包括連携を進めながら地域活性化に寄与しております。

3. 目的について

当町は、東京農業大学の教育理念となっている「実学主義」に基づいた“ものづくり”“ひとづくり”を地域の産業振興の発展及び教育における人材育成に活用する目的で、東京農業大学生物産業学部と産業・教育・文化及び地域振興の分野において、包括連携協定に関する協議を進めるものであります。



4. 包括連携の内容について

包括連携の内容に関しては、先の事前協議において、

- ①産業振興の発展
- ②産業を担う人材育成
- ③子供たちの教育的支援

の3点をポイントに、次の内容を基本に事務担当者間で調整をすることとしております。

- (1) 地域における技術支援及び調査研究による産業振興の発展に関すること
- (2) 産業振興を担う人材育成に関すること
- (3) 将来を担う子供たちの教育的支援を通じた人材育成に関すること
- (4) 学生の教育支援に関すること
- (5) その他相互の協議により定める事項

◇具体的な連携の考え方◇

- 産業分野における付加価値の向上に向けた調査研究の協力を図る。
- 漁業・農業後継者等を対象にした出前講座等により人材育成を図る。
- 小中学生の教育における科学的な体験学習等の協力関係による教育効果の向上を図る。
- 福島商業高等学校において、大学生と高校生の交流や大学教授による講座等により教育内容の充実を図る。
- 福島商業高等学校を東京農業大学の指定校とすることにより、生徒の進学の実績の拡充を図る。
- 大学生の教育実習の場として、町の各施設を活用し、産業振興に向け連携を図ることで、地域産業における専門的知識を取入を図る。

5. 協定の期間について

2～3年を目途とします。

6. 今後の作業スケジュールについて

- 4月下旬 連携に向けた学校等関係機関との調整・協議
- 5月上旬 包括連携協定書（案）の内容に関して事務担当において調整
- 5月下旬 東京農業大学生物産業学部において協定に関する承認
- 6月上旬 東京農業大学理事会において承認
- 6月下旬 包括連携協定書の締結予定
- 7月上旬 包括連携協定に基づいた事業の開始

7. 東京農業大学と各高校との連携状況について

| 校 名 | 要 請 内 容 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 網走南丘 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊研修 ・ 出前講座～高校生フォーラム（調査・まとめ・発表等） |
| 網走桂陽 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前指導～高校生フォーラム（調査・まとめ・発表等） ・ 出前講義～地域を知る「地域ビジネス」 ・ 出前講義～地域を知る「地域の観光」 |
| 女満別 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前指導～高校生フォーラム（調査・まとめ・発表等） |
| 東藻琴 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊研修～かまぼこの製造 ・ 出前講座～高校生フォーラム（調査・まとめ・発表等） ・ 大学施設見学 |
| 美幌農業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見発表審査委員「農業高校で学んだこと、環境と食、文化」 ・ 宿泊研修 ・ 実践発表会審査委員 |
| 常 呂 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講義～スポーツ科学「講義・測定」 ・ 出前講義（環境学習）～ワッカ原生花園の外来種 ・ 出前講座～高校生フォーラム（調査・まとめ・発表等） ・ 文化講演会～自然・環境・地域振興・食などの講演会 |
| 佐 呂 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前指導～高校生フォーラム（調査・まとめ・発表等） ・ 大学での講義～生物（電子顕微鏡実習） ・ 大学施設見学（PTA研修） |
| 中 標 津 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講義～「哺乳動物の配偶子形成から生まれるまで」 ・ 出前指導～高校生フォーラム（調査・まとめ・発表等） ・ 実験実習～「マウスの精子、卵子、胎児の観察」 |
| 羅 白 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講義～河川に生息する水生昆虫の観察・講義 ・ 出前講義～知床の自然に関する講義 ・ 大学における実習 ・ 学校カウンセリングの技法 ・ 大学体験訪問 |

8. 標津町の相互協力協定の事例について

(1) 協定の経過について

東京農業大学の教授及び学生が産業分野における教育実習で来町していたことから、町の基幹産業である農業・漁業等の産業分野や自然環境分野における大学の専門的知識を町教育分野に取り入れることで、教育の向上、また、地域の産業発展につなげる目的から協定を締結した。

(2) 協定書の概要について

- ①協定書調印時期 平成20年7月3日
- ②協定書の名称 「東京農業大学生物産業学部と北海道標津町との相互協力協定書」
- ③協定の内容
 - ア. 標津町内小中学校、標津高等学校における地域産業、自然環境分野に関する教育的支援、教育共同研究に関すること
 - イ. 地域における産業の発展、自然環境に関すること
 - ウ. 学生の教育支援に関すること
 - エ. その他両者の協議により定める事項

(3) 連携事業の内容について

| 番号 | 事業項目 | 事業内容 |
|----|-----------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 1 | 標津沿岸・沖合域海洋調査 | 平成20年度より実施している高大連携による海洋調査について平成21年度は内容を充実して実施する。 |
| 2 | 標津環境教育ミーティング兼標津高校環境教育プロジェクト校中間発表会 | 調査内容、成果発表の場を設けて町民への発信を行う。 |
| 3 | 夏休み子供ワクワク海の体験科学教室 | 小学生を対象に、大学生と一緒に、みて、ふれて、たのしむ、自然の不思議・科学のすばらしさをみんなで学ぶ。 |

(4) 大学との連携拠点施設の整備について

大学の地元における研究拠点として、旧道さけ・ます増殖事業協会事務所兼倉庫を改修整備することとしている。

[平成22年度予算]

| 項目 | 予算額 | 内容 |
|-------|----------|---------------|
| 工事費 | 8,836千円 | 施設改修費、外灯 |
| 備品購入費 | 1,049千円 | プロジェクター、洗濯機ほか |
| 需用費 | 387千円 | 消耗品、光熱水費ほか |
| 手数料 | 15千円 | |
| 合計 | 10,287千円 | |

東京農業大学生物産業学部と北海道標津町との相互協力協定書

東京農業大学生物産業学部と北海道標津町は、相互の発展のため、教育・文化・地域振興等の分野において協力するためにこの協定を締結する。

第1条 両者は、次の事項について協力するものとする。

- (1) 標津町内小中学校、標津高等学校における地域産業、自然環境分野に関する教育的支援、教育共同研究に関すること
- (2) 地域における産業の発展、自然環境に関すること
- (3) 学生の教育支援に関すること
- (4) その他両者の協議により定める事項

第2条 相互協力事業の内容については、事業担当者間の協議により行うものとする。

第3条 両者は、施設・設備の使用等相互協力事業に必要な便宜について、可能な限り供与するよう努めることとする。

第4条 この協定書に定めるもののほか、相互協力事業に関して必要な事項は、両者が協議のうえ、その都度定めるものとする。

第5条 本協定書は、両者が署名した日に効力を有し、平成24年3月31日まで有効とする。ただし、両者のいずれからも異議の申し出がない場合は、更に1年間継続するものとし、その後も同様とする。

本協定書は2通作成し、両者が署名及び捺印の上、各1通を保有する。

平成 年 月 日

東京農業大学生物産業学部長

標津町長

印

印

標津町教育委員会教育長

印

東京農業大学生物産業学部出張講義テーマ一覧（抜粋）

| 学科 | 職名 | 氏名 | 講義テーマ |
|--------------|-------|--------|----------------------------------|
| アクアバイオ 学科 | 教授 | 水野 眞 | 藻類の多様性 |
| | 准教授 | 千葉 晋 | 漁業で魚が進化する？ |
| | 講師 | 園田 武 | 小さなシジミのはなし |
| | 講師 | 小林 万里 | 地球温暖化によるアザラシへの影響 |
| | 講師 | 金岩 稔 | 何故、漁業管理は失敗するのか？ |
| | 教授 | 伊藤 雅夫 | 魚たちの性の不思議（魚の性をコントロールする） |
| | 教授 | 白井 滋 | サメとエイの不思議な世界（多様性と進化） |
| | 講師 | 松原 創 | 水の中には宝がいっぱい！（水中生物の秘密、お教えします） |
| | 教授 | 坂井 勝信 | 養殖魚の病気 |
| | 講師 | 山家 秀信 | 水圏生物の性フェロモン |
| | 教授 | 谷口 旭 | いま、アクアバイオ学が必要なわけ 人と海とのかかわりの歴史 |
| | 准教授 | 西野 康人 | オホーツク海の海水がもたらすもの |
| | 教授 | 塩本 明弘 | 豊かなオホーツク海を支えるメカニズム |
| | 教授 | 柏井 誠 | 黒潮と親潮はぶつかるか？ |
| | 食品化学科 | 講師 | 朝隈 康司 |
| 教授 | | 永井 毅 | コラーゲンの世界に迫る！ |
| 助教 | | 中澤 洋三 | 酵素パワーの食品化学 |
| 教授 | | 永島 俊夫 | 地ビール開発と地域貢献 エミューの利用と起業化 |
| 教授 | | 佐藤 広顕 | 美味しさの不思議 |
| 准教授 | | 村松 良樹 | 地域特産物の加工技術 |
| 教授 | | 西澤 信 | コンブは食物繊維の宝庫 |
| 産業経営学科 | 助教 | 妙田 貴生 | イモが地球を救う？ |
| | 教授 | 竹下 幸一 | インターネットショッピング |
| | 講師 | 野村 比加留 | あなたのまわりにはマーケティングが！ |
| 生物生産学科 | 教授 | 田中 俊次 | 広域観光産業の可能性 |
| | 助教 | 笠島 真也 | ソバの安定多収に向けて |

※上記の表は、テーマ一覧表から一部抜粋した内容となっています。